

# ガイドツアーで伝える 「美又共存同栄ハウス」 の魅力

島根県立大学 地域政策学部地域政策学科 地域づくりコース

3年 佐藤小春

# 目次

- ▶ 美又共存同栄ハウスとは
- ▶ ガイドを始めるきっかけ
- ▶ ガイド制作に向けて
- ▶ ガイド原案
- ▶ ガイドを通じて感じたこと
- ▶ ガイドで得られた効果
- ▶ 今後の展望

# 美又共存同栄ハウスとは

- ▶ 浜田市金城町の美又地区にある建物。
- ▶ 1937年に地域の方々が資金や土地を出し合って建築した「美又信用購買販売事務所」（農協さん・旧農協）をクラウドファンディングにより改修した。
- ▶ 「仲間がいればコトが起きる」をコンセプトに共存同栄な場所を目指してる。



# ガイドを始めるきっかけ

- ▶ クラウドファンディングに協力してくださった方向けのオープンハウスセレモニーに参加。
- ▶ 県外からの来訪者や地元の方と交流することで、前身である「農協さん」や美又地区の魅力を知る。
- ▶ 美又や新しく生まれ変わったハウスについて、もっと多くの人に知ってもらいたいと感じた。

# ガイド制作に向けて

## ▶ ガイドの目的をはっきりとさせる

⇒訪れた人に「自身がハウスの仲間になる姿」を想像してもらい、「ハウスが形作るコミュニティに入りたい」と思ってもらいたい

## ▶ ガイドの手順と内容を考える

⇒ガイドする場所や説明内容を明確にすると共に、ガイドを引き継げるようマニュアル化する

# ガイド原案

## 美又共存同栄ハウス ガイド原案

<ガイドをする方へ>

○目的：訪れた人に「自身がハウスの仲間になる姿」を想像してもらい、「ハウスが形作るコミュニティに自分も入りたい」と思ってもらいたい

○持ち物：①と②を見せながらガイドしてください

- ①「美又共存同栄 BOOK」（ハウスの成り立ちや歴史、地元の方の想いについて）
- ②「仲間がいればコトが起きる」（ハウスでの活動の様子について）  
ハウスについて、ガイドをする人自身の経験談があれば話してみてください。

<実際のガイドの手順と内容>

○ガイドをする順番

- ① 建物正面の「共存同栄マーク」→ ②広場 → ③食堂 → ④寝台 → ⑤講堂 → ⑥外観  
(ガイドが混雑している場合は空いている場所から案内しましょう)

○ガイドをする場所と説明内容について

- ① 建物正面の「共存同栄マーク」(1F)

二階の窓の上部にあるマークをご覧ください。なんて書いてあるか読めますか？

あちらのマークには共存同栄と書かれています。元々この建物は美又信用購買販売組合とあって、このマークはその時に掲げられたものです。その後は販売組合から農協、JAへと引き継がれ、改修前までは長年空き家になっていました。こうした歴史ある建物を残したいという思いを持った一人が立ち上がり、今の共存同栄ハウスができました。

共存同栄には「助け合いながら、共に繁栄していこう」という意味が込められています。ハウスでは仲間と共に温泉に行く、一緒にイベントに参加する、といった「仲間がいればコトが起きる」をコンセプトにしています。(②の紙を見せる)

そうした仲間たちと助け合いながら、共に繁栄していける場所を目指しています。是非とも自分がこのハウスの仲間になっている姿を想像しながら、このガイドを聞いてみてください。

- ② 広場 (1F)

ここは農協時代に事務所や金融窓口として使用されていた場所です。元々部屋を隔てる壁がありましたが、改修に伴って壁を取り払い、現在は多目的に使えるような「広場」になっています。天井一面に架け渡されている梁は二枚の天井板を取り外した際に出てきた

ものです。長机と椅子があるため仲間とイベントを企画したり、ワークショップの会場にしたりすることができます。

- ① 食堂 (1F)

次にご案内するのは「食堂」です。クリーム色のカウンターが特徴的です。このカウンターの板材は改修のときに出てきた二枚目の天井板をそのまま活用しています。そのため、板にはクギ穴やねじ穴の跡が残っています。地域の方曰く、農協時代には囲炉裏があったそうです。

食堂には業務用のコンロやシンクを備えているため、ハウスの仲間たちと一緒に料理を楽しむ、美味しいご飯を味わえます。食器やグラスなどは地域のおばあちゃんから寄贈していただいたものを使っています。このように一度その役割を失ったものが再びハウスで新しい役割を担っています。これも共存同栄の取り組みの一つです。(①p19-20を見せる)

- ② 寝台 (1F)

次は「寝台」です。ここは農協時代に増築されたスペースで、ハウスの中でも特に印象的な場所です。名前の通り「寝台列車」をイメージしています。二段ベッドを5つ設置し、最大で10人の仲間たちと宿泊できます。入り口に近いベッドから部屋の奥に行くにつれ、オープン、セミオープン、クローズドな設計になっており、プライベートな時間が欲しい人にも安心して過ごしていただけます。シャワー室が一基設置してありますが、宿泊していただいた際は是非とも仲間たちと美又温泉へ足を運んでみてください。

手前にはベッドに居る人たちと会話ができる談話スペースがあり、仲間たちと夜まで語り合って欲しいという思いがあります。お酒を飲みながら「ハウスでやりたいこと」について語り合ったり、仲間同士の親睦を深めたりすることもできます。

- ③ 講堂 (2F)

最後は「講堂」です。ここは農協さん時代の面影を残している場所の一つです。南向きの大きな窓ガラスが特徴的であり、綺麗な石州瓦の町並みを望むことができます。窓際には新たにカウンターを設置し、休憩やコワーキングスペースとして活用できるようにしました。

劣化して穴が開いていた天井は埋めなおし、綺麗に修理しました。中央にある大きな電灯は電球のみを交換し、当時のままで残しています。改修前は板一枚の床でしたが、その

後は床を厚くしてカーペットを全面に敷きました。そのため、裸足でゆったりとくつろぐことができます。オープンハウスでは、子供たちが元気に走り回る姿も見られました。クッションを敷いて仲間とくつろげば、ゆったりとした時間を感じることができます。また、黒板にはハウスのオープニングセレモニーで来ていただいた方の「ハウスでやってみたいこと」が書かれています。

- ① 外観 (2Fで紹介してください)

綺麗に改修された内装に反して、外観は当時のままの姿を残しています。水色のかわいらしい壁が印象的です。「改修」と聞くと外観も新しくするイメージがありますが、ここでは敢えて古いものを活かすことで過去の時代の痕跡を残しています。地域の方から「懐かしい」という声を聞く一方で、初めて来た人からは「外観と中のギャップに驚いた」という意見をよくいただきます。

ハウスのガイドツアーこれで以上になります。このガイドを聞いて、皆様自身がこのハウスで「仲間たちと何かをしている姿」を想像していただけましたか。

今後このハウスが皆様にとって「ここ来ればみんなに、仲間に出会える場所」になっていただければ嬉しいです。

そしてここからは自由見学となります。また、1階の広場では共存同栄ハウスのグッズを販売しています。是非ともお越しください。

# ガイド原案

## ▶ ガイドをする人への心得

⇒持ち物やガイドをする目的

## ▶ ガイドをする順番

⇒①建物正面の「共存同栄マーク」

②広場・③食堂・④寝台・⑤講堂・⑥外観

## ▶ 場所の説明

⇒改修前の写真を見せながら、施設の特徴や用途を説明する

# ガイド原案（一部抜粋）

## ▶ ①建物正面の「共存同栄マーク」

二階の窓の上部にあるマークをご覧ください。なんて書いてあるか読めますか？

あちらのマークには共存同栄と書かれています。元々この建物は美又信用購買販売組合といって、このマークはその時に掲げられたものです。その後は販売組合から農協、JAへと引き継がれ、改修前までは長年空き家になっていました。こうした歴史ある建物を残したいという思いを持った一人が立ち上がり、今の共存同栄ハウスができました。

共存同栄には「助け合いながら、共に繁栄していこう」という意味が込められています。ハウスでは仲間と共に温泉に行く、一緒にイベントに参加する、といった「仲間がいればコトが起きる」をコンセプトにしています。



# ガイド原案（一部抜粋）

## ▶ ④寝台（1F）

次は「寝台」です。ここは農協時代に増築されたスペースで、ハウスの中でも特に印象的な場所です。名前の通り「寝台列車」をイメージしています。二段ベッドを5つ設置し、最大で10人の仲間たちと宿泊できます。入り口に近いベッドから部屋の奥に行くにつれ、オープン、セミオープン、クローズドな設計になっており、プライベートな時間が欲しい人にも安心して過ごしていただけます。シャワー室が一基設置してありますが、宿泊していただいた際は是非とも仲間たちと美又温泉へ足を運んでみてください。

手前にはベッドに居る人たちと会話ができる談話スペースがあり、仲間たちと夜まで語り合っただけという思いがあります。お酒を飲みながら「ハウスでやりたいこと」について語り合ったり、仲間同士の親睦を深めたりすることもできます。

# ガイドをして感じたこと

## ▶ 新しい人との出会いがある

イベントなどを通じて、今まで関わったことのない人と出会うことができる。

新たな出会いから生まれる交流や関わりはとても貴重。

## ▶ 地域に愛着がわく

その地域に来ただけで「よく来たね」と喜んでくれる人がいる。

地元や自分が住んでいる地域以外に「大切にしたいな」と思える居場所ができた。

## ▶ ハウスについて深く知りたいと思うようになる

ハウスの歴史や改修のポイントなどをガイドに盛り込むため、自らガイドについての話を関係者に聞くようになった。

# ガイドで得られた効果



- ▶ 美又を知らない人や初めてハウスに来た人がガイドをすることで、地元の住民やハウスの歴史に興味や関心を抱いてくれる。
- ▶ ガイドを目的にハウスを訪れてくれる人が現れる。

# 今後の展望

## ▶ 人材の育成

⇒自分が卒業してしまおうとガイドをすることができる人材がいなくなってしまう。ガイドツアーができる人材を育成するために、マニュアルと共にハウスの歴史や改修のポイントを次の人に教えていきたい。

## ▶ ガイドツアーの継続

⇒ガイドツアーは初めて訪れた人との交流にも繋がる。そのためガイドの内容を改良していきつつ、「ガイドツアー」という形は残していきたい。